



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学附属図書館報「榆蔭」102号
Issue Date	1998-12
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/66420
Type	journal
File Information	yuin102.pdf





楡蔭

Yuin 北海道大学附属図書館報

目次

情報技術の学内共通基盤の早急な確立を 大型計算機センター長 宮本 衛市……………1	・朝永振一郎博士の研究ノート「立体回路に関する一般論の試み」の概要 名誉教授(工学部) 松本 正……………9
オンラインジャーナル集の作成 情報サービス課 村田 邦恵……………4	・教官著作寄贈図書……………10
お知らせ	図書館統計(平成9年度)
・館報速報版「楡蔭レター」を発刊しました……………7	・利用状況……………11
・北海道大学図書館講演会が開催されました……………7	・オンラインCD-ROM データベース……………12
・学術情報センター新IR・新ILLシステム説明会が開催されました……………7	会議……………13
資料紹介	人事往来……………15
・朝永振一郎博士の研究ノートが寄贈されました……………8	

情報技術の学内共通基盤の早急な確立を

大型計算機センター長 宮本 衛市

(1) 情報革命

最近の計算機、さらにはネットワークの進歩には凄まじいものがあります。最近というよりは、今までずっと長足の進歩を遂げてきたといった方が適切でしょう。これからも発展のテンポは速くこそなれ、遅くなるような気配は感じられません。この進歩に無理やり対応させられ、我々はパソコンを数年で買い換えなければならない破目に追いやられております。学内のネットワークも、かつてのFDDI系のシステムからATM系のシステムに近々更新します。それはあたかも、やっとすれ違いつつながら行き来していた田舎道を、高速道路へ切り替えるようなものです。同じことを計算機で例えるなら、来年度に大型計算機センターで導入を

検討しているスーパーコンピュータは、列車からジャンボジェット機に換えるようなもので、そうするとパソコンは、さしずめ自転車といったところでしょうか。

田舎道と高速道路、あるいは自転車とジャンボジェット機では、自らその使命が異なるのは明白です。どちらか一方があればいいというものではなく、お互いに補完し合う関係にあります。また、乗り物はそれに対応した道が整備されていなければ無用の長物にすぎません。まさに、計算機とネットワークは乗り物と道の関係にあります。高速道路を自転車で走っても、快適かもしれませんが、インフラとしてはナンセンスですし、田舎道をジェット機なみの車で走ろうとしても、走れるもの

ではありません。新鋭のスーパーコンピュータを導入し、ATM系のネットワークを展開するということは、これまでとは意味の違う世界が出現することに対応します。間もなく実現する情報環境は、田舎道を自転車で行っていた風景を、高速道路を車で飛ばす風景に、そしていずれは飛行機が飛び交う風景に変えるようなことを意味します。我々はこのような変革を実感し、自らのものにすることができのでしょうか。できなければ馬の耳に念仏で、時代錯誤の世界に取り残されます。

いうまでもなく、大学は最先端の教育研究環境を持つことが至上命題とされていますが、それを活用する技術がなければ宝の持ち腐れとなります。しかし、それを利用するには製造する技術に勝るとも劣らない利用技術が必要とされます。これまで自転車に乗っていたのが、一朝一夕で高速道路を車で走ることができないことを考えればよくわかります。それでも、我々は新しい技術を次々と自家薬籠中のものとしなければならない宿命を担っております。そうしなければ、教育研究で遅れを取るからです。しかし、単なる努力だけでは竹槍で鉄砲に向うだけです。技術には技術で対抗しなければなりません。

(2) 情報の利用技術とシステム技術の分離

それでは、どうやって利用技術を獲得すればいいのでしょうか。ここでまた、車の例に戻ってみます。高速道路ができて、我々自ら運転しなければならないのでしょうか。運転すること自体が目的である趣味道楽は別にして、本来の目的は速く目的地に到達することのはずです。ならば、自分に技術がなければ、運転手を雇うことです。この運転手は車だけではなく、高速道路システムにも長けており、いわばハードウェアシステムに精通していますので、一部区間が不通になったり、新路線が開通すると、すぐ対応することのできる、プロの運転手です。

しかしながら、何のために車を運転するのかは、雇い主が決めることで、運転手の関知するところではありません。雇い主は運転技術から離れ、も

っぱら商売のこと、旅行のことなどを考えればいいのです。ここで、運転上の技術をシステム技術、雇い主のもつ技術、例えば高速道路を活用して商売するノウハウを(狭い意味での)利用技術と呼ぶことにします。

ここまで巨大化し、複雑化した情報システムを教育研究に取り込むためには、個人的な力量では手に余るようになってきました。そこで私は、研究者あるいは管理者が本来発揮しなければならない利用技術に専念できるようにするため、彼等をシステム技術から解放すべきと考えます。そのためには、このシステム技術をサポートする研究技術集団が必要となります。大学で行われている教育研究上の利用技術は、民間の事業上の利用技術とは異なり、先端的な、あるいは試行錯誤的な技術が要請され、民間に求めることは難しそうです。やはり学内でこのような研究技術集団を擁立すべきと考えます。

かつては技能職として技官が、そしてガラス、木工、電気、機械などには専門技術をもった技官の定員が認められましたが、昨今ではこのような定員を獲得することは非常に困難です。一方、革命的ともいえる情報技術、そしてそれらを駆使しなければ教育研究上、致命的な後進性を甘受しなければならない現状において、本学が情報技術を支援する研究技術集団を確立することは焦眉の急と考えます。この研究技術集団を仮に「次世代情報技術開拓センター」と呼ぶことにします。この仮称は、このようなセンターに対する思い入れからつけた名前です。以後、これをセンターと呼ぶことにします。

(3) 情報技術の基盤整備

それでは、このような研究技術集団に課せられる任務について考えてみます。ここでの技術は、あくまで計算機システム、ネットワークおよび関連機器に対する運転、管理、さらには構築に関するものであって、その目的に対しては原則としてタッチしません。利用目的は利用者が自由に描くものとしませんが、経費上あるいは技術上、両者の

密接な協議が必要であることはいうまでもありません。

本学には、大型計算機センターのほかにも、図書館、病院、事務局などでも計算機システムが稼働しており、それぞれで維持管理しております。今までは情報処理を必要とするところに計算機システムを設置する必要がありましたが、今年度実施されますHINESの拡充計画により、校内ネットワークが高速化され、学内全体がいわば1つの計算機システムに統合されたような観を呈し、計算機が学内のどこにあるのかを意識する必要がなくなります。そうしますと、計算機システムを自ら所有する必要もなくなり、その維持管理をセンターに委託することができるようになります。そうしますと、委託者はこれまでのシステムの維持管理から解放され、その利用に専念することができるようになります。これからの情報は紙メディアを使ったものから、計算機とネットワークをメディアとしたものにますますシフトしていくことでしょう。このような背景で考えますと、情報の創造を行うものと、情報の格納と流通を行うものと、の専門化です。いわば、著者と出版者のような関係を形成することに対応します。

同じことは、研究室が所有する計算機システムにも当てはまります。今までは各研究室が自分達の計算機を所有し、管理してきました。しかし、管理といってもシステムを一度インストールすればいいのではなく、バージョン管理から、不正侵入を防ぐための対策などを日常的にこなさなければなりません。そうしなければ、最新のソフトウェアを利用することができないばかりか、深刻なのは不正侵入に対して無防備になってしまうことです。自分の計算機システムが被害に会うのは仕方ないとしても、インターネットを通じて全世界に対する加害者になってしまうことは許されません。

インターネットが普及した現在においては、計算機システムの管理はきわめて重要な任務を帯びているのですが、研究室の学生諸君が研究の合間に何とか管理しているのが現状ではないでしょうか。まさに、薄氷を踏む思いに駆られます。このよう

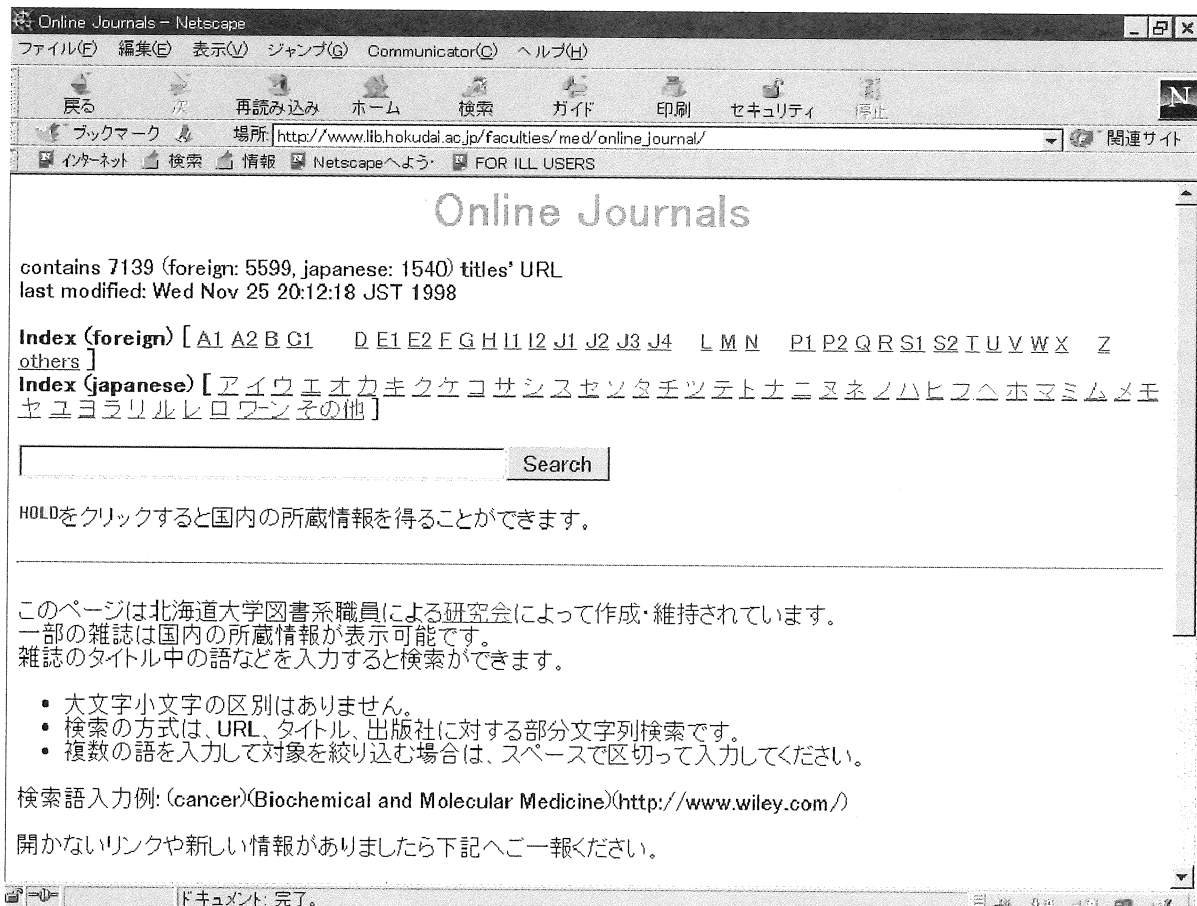
な計算機システムもセンターに委託して、仮想的な計算機システムの提供を受けることにより、管理業務から解放され、本来の研究に専念することができます。もし、システムの自由な利用を望んで管理を自前でするときには、一定水準以上の管理技術が要求され、将来は認定制度を導入する必要があるのではないかとさえ思います。

そこで気になるのが他大学の動きかと思います。このようなことに対する実質的な運用はすでに行われており、例えば東京大学では図書館の情報処理業務の一部を大型計算機センターが請負っておりますし、東京大学や大阪大学では附置研究所で導入すべきスーパーコンピュータを大型計算機センターのスーパーコンピュータに統合し、計算処理を大型計算機センターに請負わせております。このような実績をもとにして、東京大学は情報基盤センター構想を打ち出し、その実現に向って努力中と聞いております。他の主要大学もそれぞれの特徴をもったセンター構想を練っております。いずれも、今後大学にとってきわめて重要なインフラになることを見越しての動きです。本学はその建学精神からも、今後の教育研究にとって不可欠なこのようなセンターを他に先駆けてでも実現させるべきかと思い、全学の世論を喚起する次第です。

(みやもと えいいち)

オンラインジャーナル集 (*1) の作成

情報サービス課北分館情報サービス掛
村田 邦恵



オンラインジャーナル集 (http://www.lib.hokudai.ac.jp/faculties/med/online_journal/) は、出版者や学会で作成している、雑誌の URL を集めたリンク集です。1998.11 現在、7,139 件 (洋雑誌 5,599 件、和雑誌 1,540 件) がリンクされています。

このページは、医学部図書館と、農学部図書室がそれぞれ作成していた、学部の購入洋雑誌のリンク集が元になっています。私はその中の農学部の洋雑誌リンク集の作成にたずさわりました。

当時、私は洋雑誌の受入担当で、雑誌の購入価格を調べる一手段として出版社が作成している雑誌のページを利用していました。訪れたページの URL は、「再度見る必要があるかもしれない」と考えて、ブラウザのブックマークに記録していました。そのうち、ブックマークに登録している URL が多くなってきて非常に見づらいものになってしまいました (ブラウザは掛員全員で共有していたため、ブックマークには雑誌の URL 以外のものも混ざっていました)。また、このころちょうど、附属図書館で HTML の講習会があったので、HTML の勉強も兼ねて自分専用のリンク集を作ってみました。

「購入価格」を調べていたため、私が記録していた雑誌の URL のリストは、そのまま農学部の購入洋雑誌のリストになっていました。結構大きなリンク集に育って来るにつれて、このまま自分専用になっているのがもったいないような気になってきていました。そこで、この当時、次年度の契約を確認するための購入中

雑誌のリストを作っていましたので、この2つを組み合わせ「リンク付購入中洋雑誌のリスト」を作って、農学部図書室のページから見に行けるようにしました。

同時期に医学部図書館でも雑誌のリンク集を作成していました。こちらでは、購入中の洋雑誌のページのうち、主にWeb上でコンテンツやフルテキストを見る事が出来るところを探してリンクしていたようです。

医学部／農学部とも、主なリンク先はElsevierとSpringerでした。両学部で重複して購入している雑誌が結構あるため、かなり似通ったリンク集になっていました。「同じところ（北大図書館のページの中）に同じリンク集が2つも3つもあるのはおかしい」「どうせなら、購入しているものに限らないで作って、全国から見てもらえるページにしよう」ということで、医学部の中野さんと附属図書館情報処理掛（現在はシステム管理掛）の杉田さんが作成しはじめたリンク集に、私のほうで持っていたURLのデータを提供して、現在のページの原型が作られました。その後、工学部、文学部、附属図書館等からメンバーが集まって“研究会（*2）”を結成し、分野ごとに分担してURL収集作業を行ないました。

1997年9月、約3,000件収録した時点で学外へ公開しました。これまでの経過もあり、この頃までは洋雑誌のURLのみ収集していました。しかし、類似のリンク集が韓国にある（*3）ことが判明したため、これとは異なる特徴を付け加える必要に迫られました。そこで、和雑誌のURLの収集／学術情報センターのWebcatの所蔵情報へのリンク／学術情報センターの目次速報データベースへのリンク／類似ページへのリンク集を追加しました。

現在、リンクは雑誌のタイトルのアルファベット順（和雑誌は五十音順）になっています。簡易検索機能がついていて、タイトル・URL・出版者に含まれるキーワードで検索することができます。

Index (foreign) [A1 A2 B C1 C2 D E1 E2 F G H I1 I2 J1 J2 J3 J4 K L M N O P1 P2 Q R S1 others] Index (japanese) [アイウエオカキクケコサシスセソタチツテトナニヌネノハ ヤユヨラリルレロワン その他]
Search

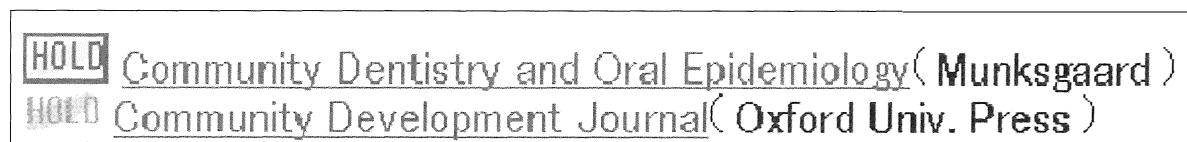
リンク先で見ることのできる情報には、次のようなものがあります。

- 書誌情報（ISSN、発行頻度等）
- 雑誌の内容の説明
- 出版情報（発行号、購読料等）
- 編集者の情報
- 論文の掲載規定
- 雑誌の目次（コンテンツ）
- フルテキスト

どの情報をみることができるのかは、ページ毎／出版社ごとに異なります。また、フルテキストやコンテンツを見るために、特別な契約が必要な出版者もあります。北大の中からのアクセスに限ってフルテキストを見ることのできるものもあります。

（詳しくは[http:// www.lib.hokudai.ac.jp/riyoannai/academic.html](http://www.lib.hokudai.ac.jp/riyoannai/academic.html) を参照して下さい）

Online Journals ページのリンクには、一部ですが³、NACSIS Webcat の所蔵情報へのリンクをはってあります。青い [HOLD] の絵 (テキスト Only のブラウザでは “HOLD”) をクリックすると、学術情報センターの総合目録データベースの、該当する雑誌の所蔵が表示されます。グレーの [HOLD] の絵の時 (テキスト Only のブラウザでは “---”) は、Webcat へのリンクはありません。また、和雑誌のリンクには、学術情報センターの目次速報データベースへのリンクが含まれています。



本格的に作成しはじめてから、丸一年が経過しました。収録 URL 数も当初の倍近くになりましたが、半ば「勢い」で作成したようなページですので、最初に目指そうとしていた「役に立つページ」になっているのだろうかと、時々不安に感じたりもしています。もし、つながらないリンクや新しい情報を見つけたりした場合は、el@ml.hokudai.ac.jp までご一報下さい。

*1 http://www.lib.hokudai.ac.jp/faculties/med/online_journal/

*2 メンバーの一覧は、http://www.lib.hokudai.ac.jp/faculties/med/online_journal/staff.htmlにあります。

*3 <http://biblio.kbsi.re.kr/yellow/index.html>

館報速報版「楡蔭レター」を発刊しました

この度、『楡蔭』本体とは別に、図書館利用者にライブラリーセミナーの実施、臨時閉館及び利用時間の変更等最新のインフォメーションをお知らせする目的で、新しく館報速報版として「楡蔭レター」を10月1日より刊行しました。今後は月1回、1日を目処に発行する予定です。

北海道大学附属図書館 館報 (001A) レター No.1 Oct. 1 1998

北海道大学附属図書館
楡 蔭 レター
— ゆいん — 速報版 No.1 Oct. 1 1998
http://ambitious.lib.hokudai.ac.jp

◆ 発刊の趣
◆ 図書館利用情報の一部改正に伴うサービスの変更等
◆ '98 秋の図書館オリエンテーション & ガイドランスの開催

◆ 発刊の辞
近年、大学図書館をめぐる環境が急速に変わりつつある中で、図書館から提供される情報は、利用者サービスに際する部分だけでなく内容の増進と多様化がますます顕著な傾向となっており、よくに読者の高い情報については利用者への迅速かつ的確な提供が求められているように思われます。北海道大学附属図書館の館報『楡蔭』は、これまで31年間に発行されてきたのはいち編年を、通算号数は今年100号を迎えましたが、このたび『楡蔭』の本体とは別に、利用時間の延長、総合情報ターミナルの増設、図書館オリエンテーションの充実といった利用者にとって重要な情報を速報版によって提供し、お知らせすることに致しました。ごめんなさいは、資料的価値に直結する『楡蔭』とともに、速報版『楡蔭レター』のご愛読をお願い致します。
平成10年10月1日 北海道大学附属図書館長 藤澤之

◆ 図書館利用情報の一部改正に伴うサービスの変更等
平成10年10月1日から次のとおり実施します。

本館
・平日の常時利用時間を延長し、土曜日・日曜日にも常時利用できるように致します。
平日 9:00～18:00 土曜日・日曜日 11:30～18:30
・毎月第3日曜日を館内整理日として閉館します。
・グループ学習室を4階から3階に移転します。

北分館
・土曜日・日曜日にも開館します。
開館時間 10:00～17:00 書庫 10:30～18:30
・平日のグループ学習室の利用時間を9:00～18:00に変更します。
・貸出冊数を5冊までとします。(3冊から)
・毎月第4日曜日を館内整理日として閉館します。

北海道大学附属図書館 館報 (001A) レター No.1 Oct. 1 1998

◆ '98 秋の図書館オリエンテーション & ガイドランスの開催

附属図書館 (本館) では、新しく本学へ来られた方 (学生、院生、教員ほか) や島のオリエンテーションへ参加できなかった方を対象に、図書館のサービスや利用方法を紹介する「'98 秋の図書館オリエンテーション & ガイドランス」を開催いたします。
申込方法については、下記をご覧ください。

日程・内容 以下の日程と内容で開催します。

●ライブラリーツアー (30分) (各回同じ内容です)
図書館のサービスや施設をご紹介します。
1回目 平成10年10月 6日 (木) 12:15～12:45
2回目 平成10年10月 7日 (木) 12:15～12:45
3回目 平成10年10月 8日 (木) 12:15～12:45

●参考図書室の使いかた (60分) (各回同じ内容です)
参考図書室で利用できるサービスや検索システムをご紹介します。
1回目 平成10年10月 6日 (木) 18:15～19:15
→ 夜間です。夜間利用に制限があります。
2回目 平成10年10月 7日 (木) 11:00～12:00
3回目 平成10年10月 8日 (木) 11:00～12:00

●インターネット総合情報ターミナル (90分) →先着10名
図書館の総合情報ターミナルでインターネットを使う方法をご紹介します。
平成10年10月13日 (木) 10:30～12:00

●蔵書の調べかた (90分) →先着10名
蔵書を調べかたをご紹介します。
平成10年10月14日 (木) 10:30～12:00

●文庫の探し方 (90分) →先着10名
文庫の探し方をご紹介します。
平成10年10月15日 (木) 10:30～12:00

講 師 附属図書館 (本館) 2階 参考図書室 (5階) 入ってスグ

対 象 上記内容について関心をお持ちの方でしたら、どなたでもご参加いただけます。

申込方法 「ライブラリーツアー」「参考図書室の使いかた」
→ 10月6日 (月) までに下記へお申し込みください。
「インターネット」「蔵書の調べかた」「文庫の探し方」
→ 10月9日 (木) までに下記へお申し込みください。

申 込 先 附属図書館 (本館) 参考図書室 (内2973)
TEL: 011-746-2773
FAX: 011-746-4585
Email: ref@ambitious.lib.hokudai.ac.jp

申込時に以下の点をお知らせください。
お名前、ご所属 (学部等)、参加希望日時 (日曜)、連絡先 (電話、Email 等)

北海道大学図書館講演会が開催されました

平成10年11月10日 (火) 附属図書館会議室において、道内国立学校の図書館職員を対象とした北海道大学図書館講演会 (平成10年度第1回) が開催されました。

情報サービス課参考調査掛長片山俊治氏による「米国図書館ブラウジング 図書館の現場で感じたこと」と題し、本年9月に本学国際交流事業基金により派遣され、ニューヨーク大学図書館及びデラウェア大学図書館の利用者サービスの視察結果についての報告があり、道内の国立大学、高等専門学校及び本学図書館職員から70名の参加がありました。

学術情報センター新IR・新CAT/ILLシステム説明会が開催されました

平成10年11月10日 (火) 附属図書館会議室において、北海道地区の大学等の図書館職員を対象とした学術情報センターの主催による新IRシステム及び新CAT/ILLシステム説明会が開催されました。

新IRシステム説明会は、システムの概要及びその特徴、誰もが簡単にデータベースの検索ができるWWWを利用した検索とコマンドによる2種類の検索方法の説明、デモンストレーションなど本サービスに向けての紹介が行われました。また、新CAT/ILLシステム説明会は、その現状と今後のスケジュール、各メーカーの対応状況の説明、学術情報センターが開発した新CAT/ILLクライアントによるデモンストレーションが行われました。

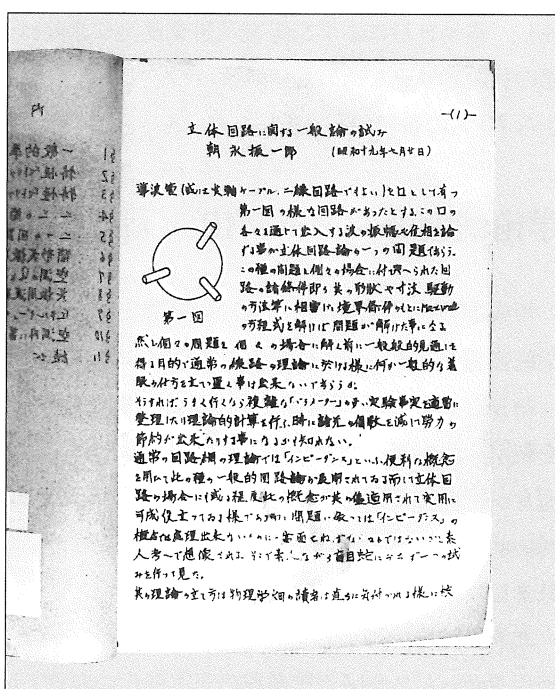
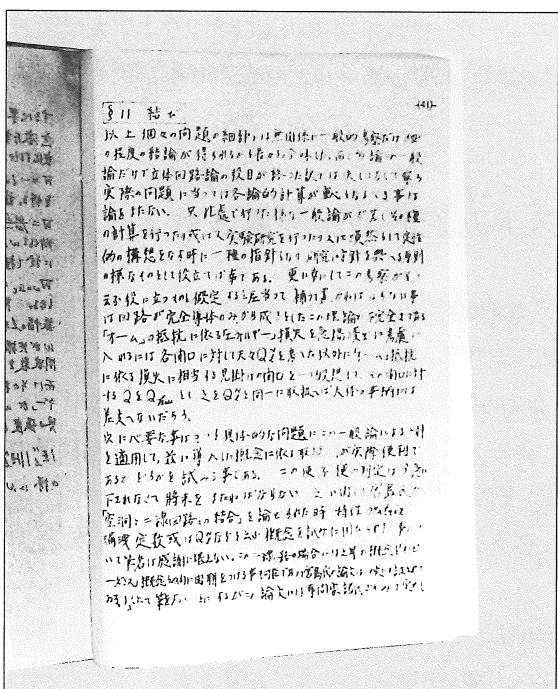
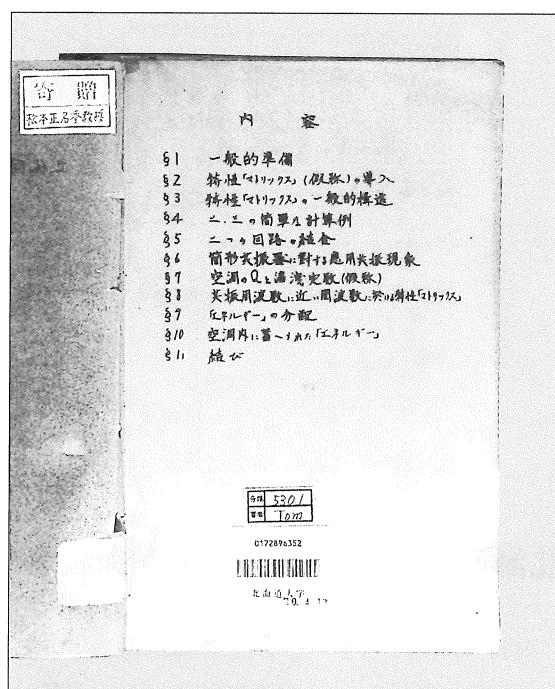
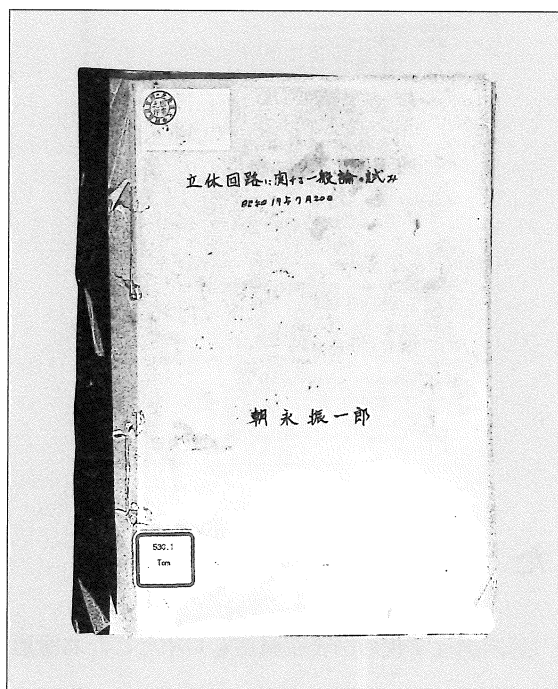
北海道地区の国公立大学等から100名を超える参加者のもとに活発な質疑応答が行われるなど、今後の利用者サービスや図書館業務の充実強化に向けて新システムへの関心が高まってきております。

資料紹介

朝永振一郎博士の研究ノートが寄贈されました

この度、ノーベル物理学賞受賞者として著名な朝永振一郎博士が昭和19年7月20日に戦時研究会議において発表された自筆の「立体回路に関する一般論の試み」が本学名誉教授松本忠氏から寄贈されました。

なお、寄贈資料については、同氏の紹介文『立体回路に関する一般論の試み』の概要をつぎに掲載しておりますので、ご覧ください。



朝永 振一郎博士研究ノート「立体回路に関する一般論の試み」の概要

名誉教授（工学部） 松本 正

論文名 立体回路に関する一般論の試み

発表時期 昭和19年（1994年）7月20日

発表会議名 戦時研究会議

第二次大戦（1941－1945）は正に科学技術の戦争であったとも言える。特に我が国の電波技術の当初からの遅れと外国からの学術情報が全く断絶してしまった情勢下での対応策が必要となった。そこで戦時研究会議が組織され、波長数cm以下のマイクロ波帯の電波技術の研究が始まった。この研究会議の委員長は、萩原 雄佑東京天文台長であり、委員には朝永 振一郎、小谷 正雄、永宮 健夫、園田 忍等我が国第一級の理論物理学、電気磁気学の学者がおられ、また若い委員としては宮島 龍興、伏見 康治、森脇 義雄、斎藤 成文、小生などであり、我々若い連中は上記の先輩教授達の研究発表や講話をきいて大きな刺激を受けた。

この寄贈資料は、上記研究会において朝永先生が発表された際に配布された資料であり「立体回路に関する一般論の試み」と題する論文の全文で先生ご自身が書かれた原稿の写しである。

この論文における立体回路とはエネルギーの出入りする導波管が沢山ある空洞のことである。論文はこのような立体回路についての一般論の構築に成功した研究成果について述べている。このような回路では各ポートを通じて出入りする波の振幅や位相を論ずる事が一つの問題となる。この種の問題を個々の場合について与えられた回路の諸条件すなわち、その形状、寸法、駆動の方法等に相当した境界条件のもとにマクスウェルの方程式を解けば問題が解けた事になる。しかし個々の問題を個々の場合について解く前に一般的見通しを得られるような着目の仕方を立てて置きたいと思うし、そうすれば複雑なパラメーターの多い実験事実を適当に整理したり、理論的計算を行うときに諸元の個数を減じて労力の節約が出来たりすることになるかも知れないし、また通常の回路網理論では「インピーダンス」と言う便利な概念を用いてこの種の一般的回路論が展開されているが、立体回路の場合にもある程度この概念がそのまま適用されて実用にかなり役立つようであるが、問題によってはインピーダンスの概念では処理できないものにも当面せねばならないかも知れぬなど期待と不安に思い悩んだが、核反応を処理する方法を示したブライットの論文（G. Breit: Phys. Rev. Vol.58 (1940), pp. 1061－1074）の数学形式にヒントを得て、良い結果を得た。

この理論は古典物理学にマクスウェルの方程式を基本として利用されるものであり、対象とする空洞を含む導波管系の各部分の形状に拘らず一般論的に次のような結果を得ることが出来る。1) エネルギー保存の法則、2) 重ね合わせの原理、3) 相反の原理等であり、さらにこれらを基にして、具体的な計算によらずに得られる種々の有効な結論を広く統一的に求めることができる。

教官著作寄贈図書

1998.7.1～1998.12.31

[本 館]

(教育学部)

- 逸 見 勝 亮 学童集団疎開史 ― 子供たちの戦闘配置 ― 大月書店 1998
須 田 力 (編著) 北方圏住民の生活とスポーツ 共同文化社 1998

(法学部)

- 中 川 明 学校に市民社会の風を
― 子どもの人権と親の「教育の自由」を考える ― 筑摩書房 1991
中 川 明 (編) マイノリティの子どもたち (子どもの人権双書3) 明石書店 1998
保 原 喜志夫 (編) 労災保険・安全衛生のすべて 有斐閣 1998

(経済学部)

- 吉 田 文 和 廃棄物と汚染の政治経済学 岩波書店 1998

(スラブ研究センター)

- 原 暉 之 ウラジオストク物語 ― ロシアとアジアが交わる街 ― 三省堂 1998

[北分館]

(スラブ研究センター)

- 原 暉 之 ウラジオストク物語 ― ロシアとアジアが交わる街 ― 三省堂 1998

ご恵贈誠にありがとうございました。今後とも図書館資料の充実のため、皆様のご協力をお願いいたします。

平成9年度 図書館統計

利用状況

開館日数・入館者数

区 分	本 館									
	開架閲覧室		書 庫		参考閲覧室		一般閲覧室		北方資料室	
	日 数	人 数	日 数	人 数	日 数	人 数	日 数	人 数	日 数	人 数
平日	228	238,579	228	18,115	242	58,752	242	89,595	242	3,430
日 中	187	59,444	—	—	—	—	—	—	—	—
夜 間	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
土 曜 日	28	12,824	—	—	—	—	—	—	—	—
日 曜 日	37	10,211	—	—	—	—	—	—	—	—
計	293	321,058	228	18,115	242	58,752	242	89,595	242	3,430

(開館日数)

区 分	北 分 館			
	開架閲覧室		ビデオ視聴覚室	
	日 数	人 数	日 数	人 数
平日	233	171,846	233	37,546
日 中	184	66,737	184	
夜 間	—	—	—	—
土 曜 日	—	—	—	—
日 曜 日	—	—	—	—
計	233	238,583	233	37,546

(開館日数)

館外貸出冊数

区 分	本 館								合 計
	開架閲覧室		書 庫		参考閲覧室(国際)		北方資料室		
	人 数	冊 数	人 数	冊 数	人 数	冊 数	人 数	冊 数	
学部学生	25,885	47,561	4,283	7,172	11	29	—	928	55,690
大学院生	5,898	11,528	6,142	17,946	55	133	—	565	30,172
教 官	812	1,549	3,378	10,957	22	53	—	553	13,112
職 員	1,205	2,138	451	824	3	7	—	206	3,175
そ の 他	727	1,557	563	2,051	14	32	—	961	4,601
計	34,527	64,333	14,817	38,950	105	254	—	3,213	106,750

区 分	北 分 館				合 計
	開架閲覧室		書 庫		
	人 数	冊 数	人 数	冊 数	
学部学生	28,740	47,666	569	757	48,423
大学院生	2,553	4,329	207	375	4,704
教 官	351	643	158	282	925
職 員	874	1,243	89	141	1,384
そ の 他	404	624	59	76	700
計	32,922	54,505	1,082	1,631	56,136

レファレンスサービス件数

区 分	文献所在調査	事 項 調 査	利 用 指 導	そ の 他	合 計
本 館	2,697	362	1,501	62	4,622
北分館	446	59	118	3	653

0

文献複写件数・枚数及び相互貸借件数

区 分	文 献 複 写			現物貸借 冊 数
	件 数	電子複写枚数	マイクロリーダー枚数	
国 内	依 頼	1,627	—	625
	受 付	7,700	4,890	1,562
海 外	依 頼	639	—	108

3年間の利用状況

区 分	7年度	8年度	9年度
総入館者数	本 館	448,631	454,386
	北分館	322,555	298,141
館外貸出冊数	本 館	101,472	103,453
	北分館	49,008	56,203
レファレンス サービス件数	本 館	11,092	9,165
	北分館	647	664
文献複写受付件数	本 館	5,547	6,213
現物貸借受付件数	本 館	1,300	1,690

オンラインCD-ROM データベース

ユーザー数

利用 者 部 局	MEDLINE	Current Contents	BA on CD	PsycLIT	CA on CD	医学中央雑誌	計
附属図書館	3	3	3	3	3	3	18
文学部	3	7	3	18	1	1	33
教育学部	7	6	3	5		1	22
法学部	1			1			2
経済学部		1					1
理学部	23	37	12	1	15	1	89
医学部	58	34	6	3	4	23	128
医学部附属病院	13	3	2	1	1	11	31
歯学部	19	11	6		2	11	49
歯学部附属病院	3				1	3	7
薬学部	12	12	1		3		28
工学部	7	19	6	2	20	1	55
農学部	13	23	19	1	4		60
農学部附属牧場	1	1	1				3
農学部附属農場		1	1				2
獣医学部	19	18	6		2	4	49
水産学部	8	12	10		3		33
地球環境科学研究科	8	12	10		7	1	38
低温科学研究所	3	6	5		1		15
電子科学研究所	7	7	2	1	4	2	23
免疫科学研究所	9	8	1			2	20
触媒化学研究センター		6			6		12
アイソトープ総合センター	2	1	2	1		1	7
実験生物センター	1	1	1	1			4
エネルギー先端工学研究センター		1			1		2
先端科学技術共同研究センター	1	1			1		3
保健管理センター	2					1	3
医療技術短期大学部	15	6	3		2	13	39
計	238	237	103	38	81	79	776

利用回数

年	月	MEDLINE	Current Contents	BA on CD	PsycLIT	CA on CD	医学中央雑誌	計
1997	4	5539	3296	86	35	287	149	9392
1997	5	6059	3647	664	88	626	1054	12138
1997	6	8293	4534	538	185	970	2033	16553
1997	7	6743	4029	736	114	1051	2213	14886
1997	8	5280	2368	502	27	926	2000	11103
1997	9	5663	2753	612	279	1532	2594	13433
1997	10	6723	3837	1355	372	2038	2312	16637
1997	11	7281	3777	1355	456	2373	2035	17277
1997	12	4319	2671	1025	191	1203	2481	11890
1998	1	6483	3340	998	111	1402	2838	15172
1998	2	4602	2674	868	107	775	2320	11346
1998	3	4670	2447	790	94	1389	2352	11742
合 計		71655	39373	9529	2059	14572	24381	161569

会議 (10.7.1～10.12.31)

【学 内】

◎図書館委員会

○第173回〈7月15日（水）〉

審議事項

1. 平成9年度決算及び平成10年度予算配当（案）について
2. 北海道大学附属図書館利用規程の改正について

報告事項

1. 資料整備検討小委員会について
2. 平成10年度科学研究費補助金「北方関係資料総合データベース」について
3. 夏季休業期間の臨時閉室について
4. 常設展示 北海道大学附属図書館所蔵古写真資料展（明治期）第3期「拓北の軌跡」の開催について
5. 平成9年度利用者サービスについて
6. 平成10年度利用者ガイダンス等の開催について
7. 総合メディア交流棟について
8. 外部データベースについて
9. 第45回国立大学図書館協議会総会について

○第174回〈12月2日（水）〉

審議事項

1. 北海道大学創基125周年記念事業「図書館資料の特別展示の公開」検討小委員会（仮称）の設置について
2. 平成11年度図書資料（大型コレクション）及び自然科学系収書計画について
3. 平成12年度概算要求事項について

報告事項

1. 資料整備検討小委員会について
2. 学術文献データベース等検討小委員会について
3. 北分館委員会（10月23日開催）について
4. 北海道大学附属図書館利用規程の一部改正について
5. 図書館情報システムの更新について
6. 館報「榆蔭レター」の発行について
7. 北海道大学125年史編集室の設置について
8. その他
 - ①本館正面玄関改修工事について
 - ②図書館セミナーの開催状況について

◎北分館委員会

○第124回〈7月9日(木)〉

審議事項

1. 平成9年度北分館図書費決算報告
3. 北分館土曜・日曜開館試行の実施及び貸出冊数等変更に伴う「北海道大学附属図書館利用規程」の改正(案)について

報告事項

1. 教育改善推進費(総長裁量経費)の申請について
2. 総合メディア交流棟について
3. 北分館の蔵書点検作業について

○125回〈10月23日(金)〉

審議事項

1. 平成10年度北分館図書費予算(案)
2. 北分館の利用施設の将来像

報告事項

1. 教育改善推進費(総長裁量経費)「入試非選択科目におけるサブジェクト・ライブラリアン(図書館主題専門官)制度と映像教材を用いた補習教育の方法に関する研究」の開始について
2. 北海道大学附属図書館利用規程の改正について
3. 北分館土曜・日曜開館の実施状況について
4. 総合メディア交流棟について
5. 2・3階閲覧室統合作業について

◎学術文献データベース等検討小委員会

第5回〈11月19日(木)〉

◎資料整備検討小委員会

第2回〈7月9日(木)〉, 第3回〈7月30日(木)〉, 第4回〈9月8日(火)〉, 第5回〈9月30日(水)〉, 第6回〈10月21日(水)〉, 第7回〈11月11日(水)〉

【学 外】

◎国立大学図書館協議会理事会等〈11月5日(木), 6日(金)〉(東北大学附属図書館)

◎第31回国立七大学附属図書館部課長会議〈10月14日(水)〉(京都大学附属図書館)

◎第72次国立七大学附属図書館協議会〈10月15日(木)〉(京都大学附属図書館)

◎学術情報センターとの業務連絡会(平成10年度第2回)〈11月4日(水)〉(東京大学社会科学研究所)

◎北海道地区国立大学附属図書館事務(部・課)長会議〈11月27日(金)〉(北海道大学附属図書館)

◎北海道地区大学図書館協議会

○第41回図書館職員研究集会企画委員会(北海道大学附属図書館)

4月14日(火), 5月12日(火), 7月3日(金), 9月11日(金), 10月13日(火)

○第3回幹事館会議〈7月28日(火)〉(北海道大学附属図書館)

○第40回北海道地区大学図書館職員研究集会〈8月7日(金)〉(北海道情報大学)

○第4回幹事館会議〈8月27日(木)〉(北海道工業大学)

○第48回北海道地区大学図書館協議会総会〈8月27日(木)〉(北海道工業大学)

人事往来

【平成10年10月1日付け異動】

〔採用〕

菊 池 満 史 情報サービス課資料サービス掛

〔昇任・配置換・転入〕

佐 藤 清 一 情報システム課図書館専門員（理学部図書掛長）

和 田 章 憲 情報管理課図書館専門員（情報システム課図書館専門員）

山 口 國 雄 情報サービス課図書館専門員（情報管理課図書館専門員）

川 端 美 明 理学部図書掛長（大学院地球環境科学研究科図書掛長）

鎌 田 由紀子 大学院地球環境科学研究科図書掛長（情報サービス課北分館情報サービス掛長）

福盛田 勉 情報サービス課北分館情報サービス掛長（函館工業高等専門学校庶務課図書係長）

〔転出〕

菅 原 英 一 信州大学附属図書館情報サービス課長（情報サービス課図書館専門員）

長 井 伸 一 函館工業高等専門学校庶務課図書係長（情報サービス課資料サービス掛）

北海道大学附属図書館報「楡蔭」(ゆいん) 通号102号

ホームページ: <http://www.lib.hokudai.ac.jp>

発行人 附属図書館事務部長 尾崎 一雄

編集事務 五十嵐哲郎・高田昌浩・佐藤 剛・首藤佳子・菊池満史・中村 陽・杉田茂樹
片桐和子・伊藤ますみ・久米未希子・佐々木圭・平田栄夫・小林流美子・加我順一

発行所 北海道大学附属図書館 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目
TEL 011-706-2967, FAX 011-747-2855

印刷所 (株)アイワード